

# 管理ガイド

Update Manager



管理ガイド

リビジョン：20080410

アイテム：VI-JPN-Q208-523

最新情報を反映したテクニカル ドキュメントは、 ヴィエムウェア Web サイトにてご覧いただけます。

<http://www.vmware.com/jp/support/>

ヴィエムウェア Web サイトでは、最新の製品アップデート情報も提供しています。

本ドキュメントに関するコメントがございましたら、次のメールアドレスまでご連絡ください。

[docfeedback@vmware.com](mailto:docfeedback@vmware.com)

©2008 VMware, Inc. All rights reserved. 本ソフトウェアは、米国特許 (No. 6,397,242、6,496,847、6,704,925、6,711,672、6,725,289、6,735,601、6,785,866、6,789,156、6,795,966、6,880,022、6,944,699、6,961,806、6,961,941、7,069,413、7,082,598、7,089,377、7,111,086、7,111,145、7,117,481、7,149,843、7,155,558、7,222,221、7,260,815、7,260,820、7,269,683、7,275,136、7,277,998、7,277,999、7,278,030、7,281,102 および 7,290,253) により保護されています。特許出願中。

VMware、VMware ボックスロゴとデザイン、Virtual SMP および VMotion は米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。ここに記載されている他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標です。

VMware VirtualCenter 2.5 は、Tom Sawyer Software 社の許諾を受けた特定のサードパーティのテクノロジーを使用しています。

Tom Sawyer Visualization (c) 2004 Tom Sawyer Software, Oakland, California. All Rights Reserved.

**VMware, Inc.**  
3401 Hillview Ave.  
Palo Alto, CA 94304  
[www.vmware.com](http://www.vmware.com)

**ヴィエムウェア株式会社**  
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5  
浜松町スクエア 13F  
[www.vmware.com/jp](http://www.vmware.com/jp)

# 目次

はじめに 5

## 1 Update Manager について 7

Update Manager の概要 7

セキュリティのベスト プラクティス 8

コンプライアンスのメリット 8

コンプライアンス セキュリティのベスト プラクティス 8

Update Manager プロセス 8

パッチのダウンロード 9

仮想マシンと ESX Server ホストのスキャン 10

修正 12

Update Manager の設定 13

## 2 Update Manager の操作 15

Update Manager のインストール、アップグレード、およびアンインストール 15

Guest Agent のインストール 18

Update Manager Download Service のインストール 19

VirtualCenter Client をアップグレードして Update Manager をサポート 19

Update Manager のアンインストール 21

構成 Update Manager 21

アップデートのチェック 22

インターネット プロキシと連携して使用するための Update Manager の構成 22

Update Manager Download Service の使用 23

ゲストの修正で障害が発生した場合の対応 24

ESX Server のメンテナンス モードへの切り替えで障害が発生したときの対応 25

ベースラインとの連携 26

ベースラインの作成 27

ベースラインの編集 30

ベースラインの適用 30

ベースラインの解除 31

仮想マシンと ESX Server ホストのスキャン	32
スキャン結果の表示	33
ESX ホストと仮想マシンの修正	37
ゲストのシャットダウン	38
手動による仮想マシンの修正	38
手動による ESX Server の修正	39
スケジュール設定による仮想マシンの修正	40
スケジュール設定による ESX Server の修正	42
Update Manager イベントとの連携	44
<b>3 操作参考資料</b>	<b>47</b>
一般的な問題と解決策	47
ログファイルの収集	47
ベースラインでアップデートを使用できない	48
コンプライアンス レポートのアップデートすべてが「適用不可 (Not Applicable)」	48
コンプライアンス レポートのアップデートがすべてが「不明 (Unknown)」	49
アップデートを修正したあとも「非準拠 (NonCompliant)」の状態が続く	49
「アップデートをすべて (All Update)」または「重要なアップデートをすべて (All Critical Updates)」を使用して仮想マシンの修正が失敗	49
ESX Server のスキャンが失敗する	50
イベント	51
インデックス	57

# はじめに

---

本『Update Manager 管理ガイド』では、VMware® Update Manager をインストールして、現在の環境で使用するための構成方法を説明します。

『Update Manager システム管理ガイド』では、VMware ESX Server 3.5 および VMware ESX Server 3i バージョン 3.5 を取り上げています。わかりやすく説明するために、本書では慣例的に次の製品名を使用します。

- ESX Server 3.5 に固有の説明の場合、用語「ESX Server 3」を使用します。
- ESX Server 3i バージョン 3.5 に固有の説明の場合、用語「ESX Server 3i」を使用します。
- 両方の製品に共通した説明の場合、用語「ESX Server」を使用します。
- 説明上、リリースを明確に識別することが重要な場合は、バージョンを付けたフルネームの製品名を使用します。
- VMware Infrastructure 3 ESX Server の全バージョンに該当する説明の場合、「ESX Server 3.x」を使用します。

## 対象読者

本書に記載されている情報は、Windows または Linux のシステム管理者としての経験があり、仮想マシン テクノロジーおよびデータ センター操作に詳しい方を対象としています。

## 本書へのフィードバック

ドキュメントの向上にご協力ください。本書に関するコメントがございましたら、次のメールアドレスまでご連絡ください。

[docfeedback@vmware.com](mailto:docfeedback@vmware.com)

## Update Manager ドキュメント

Update Manager ドキュメントは、この管理ガイド、Update Manager VI Client プラグインに統合されたオンラインヘルプ、およびリリースノートから構成されています。

本書の最新バージョンおよびその他の文書は、次の Web サイトでご覧いただけます。

<http://www.vmware.com/jp/support/pubs/>

## テクニカル サポートおよびエデュケーション リソース

ここでは、お客様にご利用いただけるテクニカル サポート リソースを紹介します。本書の最新バージョンおよびその他の文書は、次の Web サイトでご覧いただけます。

<http://www.vmware.com/jp/support/pubs/>

## オンライン サポートおよび電話によるサポート

テクニカル サポート リクエストの提出や、製品および契約情報の確認、製品の登録をオンラインで行うことができます。詳しくは、<http://www.vmware.com/jp/support> をご覧ください。

該当するサポート契約を結んでいるお客様の場合、迅速な対応が必要な Severity1 の問題に関しては電話でのサポートをご利用ください。詳しくは、

[http://www.vmware.com/jp/support/phone\\_support.html](http://www.vmware.com/jp/support/phone_support.html) をご覧ください。

## サポート サービス

お客様のビジネス ニーズに適した各種サポートの詳細については、

<http://www.vmware.com/jp/support/services> をご覧ください。

## ヴィエムウェア教育サービス

ヴィエムウェアの有償トレーニングでは、広範なハンズオン ラボやケース スタディをご紹介します。また、業務の際のリファレンスとしてお使いいただける資料も提供しています。詳しくはヴィエムウェア Web サイトにある教育サービスのページ（

<http://mylearn1.vmware.com/mgreg/index.cfm>）をご覧ください。

# Update Manager について

---

本章では、次の内容について説明します。

- [Update Manager の概要](#) (P.7)
- [セキュリティのベスト プラクティス](#) (P.8)
- [Update Manager プロセス](#) (P.8)
- [Update Manager の設定](#) (P.13)

## Update Manager の概要

Update Manager は、Virtual Infrastructure 導入環境で動作するオペレーティングシステムとアプリケーションを、基準となるアップデートおよびパッチと比較します。指定したアップデートは、スキャン済みの ESX Server ホストおよび仮想マシンのオペレーティングシステムとアプリケーションに適用できます。Update Manager は、ESX Server ホストおよび ESX Server ホスト上で動作する仮想マシンに対して処理を行います。使用している環境にあるアプリケーションのバージョンにより、メリットは異なります。VirtualCenter 2.5 と ESX Server バージョン 3.5 以降を対象に、Update Manager を使用すると、コンプライアンスをスキャンし、ゲストとホストにアップデートを適用できます。

Update Manager は既存の Virtual Infrastructure 導入サイズ基準まで拡張することができます。

## セキュリティのベスト プラクティス

特定のパッチ レベルでオペレーティング システムとアプリケーションとの一貫した組み合わせをメンテナンスすると、環境内の脆弱性を低減することができます。また同時に、解決策が必要な問題の可能性を軽減することもできます。すべてのシステムに、パッチの適用、再構成、またはその他の解決策が必要ですが、1つの環境内のシステムの多様性を抑えると、管理の負担およびセキュリティ リスクが軽減します。

### コンプライアンスのメリット

多くの攻撃が、既存のよく知られた問題を利用しています。たとえば、Nimda コンピュータ ワームは、ワームが実際にまん延する数ヶ月前に発見された脆弱性を利用しています。発生時にはパッチが存在したため、そのパッチを適用したシステムには影響がありませんでした。Update Manager は、使用している環境内のシステムに必要なアプリケーションにパッチを確実に適用するのに役立ちます。

使用している環境のセキュリティをより高めるには、次のことが大切です。

- 環境の脆弱性がある箇所を認識すること。
- それらのマシンをパッチ基準に効率的に準拠させること。

一般的な大規模の環境では、さまざまな種類のマシンでさまざまなオペレーティング システムを実行しています。環境に仮想マシンを追加すると、この多様性が増大します。Update Manager は、環境の状態を判定する処理を自動化し、環境内の VMware 仮想マシンと ESX Server ホストを効率的にアップデートする手段を提供します。

### コンプライアンス セキュリティのベスト プラクティス

セキュリティと安定性の強化によるメリットを維持しながらコンプライアンスの目標を達成するには、次のものを定期的に評価します。

- 環境で使用できるオペレーティング システムとアプリケーション。
- オペレーティング システムとアプリケーションに必要なパッチ。

これらの評価を行う責任者、評価を実行する時期、調査結果から生じる計画を実施するために使用する方法を決定します。

## Update Manager プロセス

Update Manager は、一連の操作で効果的なパッチ管理を確実にします。この処理は、一連のセキュリティ アップデートに関する情報のダウンロードから始まります。1つまたは複数のこれらのアップデートを集めて**ベースライン**を作成します。仮想マシンと ESX ホストとの集合体に対して、ベースラインを使用してコンプライアンスをスキャンし、修正 (アップデート) します。これらの処理は手動またはスケジュール設定タスクにより開始されます。

## パッチのダウンロード

Update Manager は、インターネットを使用して、VEMウェアおよび Shavlik から最新のパッチ情報を収集します。VEMウェアは ESX Server のアップデートに関する情報を提供し、Shavlik はほかのすべてのアプリケーションおよびオペレーティングシステムに関する情報を提供します。Shavlik は、さまざまなオペレーティングシステムとアプリケーションベンダー（Microsoft、Adobe、Mozilla など）についての情報を提供します。

定期的に（間隔は設定可能）、Update Manager は Shavlik と VEMウェアに接続して、適用可能なパッチに関する最新情報を収集します。ダウンロード間隔の設定については、「[アップデートのチェック](#) (P.22)」を参照してください。パッチを適用するアプリケーションまたはオペレーティングシステムが現在の環境で使用されているかどうかに関わらず、すべてのパッチ情報がダウンロードされます。

すべてのパッチ情報のダウンロードは、ディスク領域やネットワークバンド幅の観点から考えると、比較的負荷の低い操作です。これにより、それらのアプリケーションまたはオペレーティングシステムのスキャンおよび修正をいつでも柔軟に追加できるようになります。「[仮想マシンと ESX Server ホストのスキャン](#) (P.10)」および「[修正](#) (P.12)」を参照してください。

パッチの情報は、マシンのスキャン中に使用されます。Update Manager は、パッチコンプライアンスについてシステムを検査する際、そのシステムの情報をもとに最新のパッチが適用されているかどうかをチェックして判断します。この処理ではパッチ情報が必要ですが、パッチそのものは必要ありません。ベースラインに準拠していないマシンは、これらの比較によって識別されます。効率を上げてディスク領域を節約するために、仮想マシンのパッチは、その必要性が認識されたあとではじめてダウンロードされます。

仮想マシンをはじめて修正するときに、適用可能なパッチが Update Manager Server にダウンロードされて、パッチが適用されます。パッチの適用方法の詳細（すぐに適用するか、あとで適用するかなど）は、その状況下での可能性とユーザーの要求と兼ね合いで決まります。たとえば、Update Manager はマシンを修正するように設定されているにも関わらず、これらのマシンが修正できる状態ではない場合（ESX ホストがパワーオフ状態の場合など）、修正操作が可能になるまで処理は延期されます。パッチはダウンロードすると永久に保存されます。ほかのマシンが修正されると、パッチのリソースはサーバに格納されます。

Update Manager は、インターネット プロキシを使用してパッチ情報およびパッチをダウンロードするように設定できます。「[インターネット プロキシと連携して使用するための Update Manager の構成](#) (P.22)」を参照してください。Update Manager が、パッチを簡単にダウンロードできないような方法で導入されている場合があります。たとえば、Update Manager が、インターネット接続の信頼性が低い内部ネットワーク セグメントに導入されている場合があります。Update Manager Download Service は、Update Manager Server があとで使用するために備えて、パッチをダウンロードして格納します。

## 仮想マシンと ESX Server ホストのスキャン

スキャンは、一連のホストまたは仮想マシンの属性を、ベースラインと呼ばれる基準に基づいて評価する処理です。ESX Server 3.5 以降、ESX Server 3i バージョン 3.5 以降、および Windows と Linux の仮想マシンをスキャンできます。たとえば、ESX Server をスキャンして最新のパッチが適用されているか特定できます。または、仮想マシンをスキャンしてそのオペレーティングシステムに最新のパッチが適用されているか特定できます。

スキャンは、問題のオペレーティングシステムに適用するアップデートだけを対象として実行します。たとえば、Update Manager は、Windows 仮想マシンに特定のパッチセットがあるかどうかをスキャンして確定しますが、同じマシンに Linux パッチがインストールされているかどうかをスキャンして特定することはありません。

仮想インフラストラクチャにある次のオブジェクトのスキャンを開始できます。

- 1 つの仮想マシン
- フォルダ
- クラスタ
- データセンター
- テンプレート
- ホスト

リソース プールは、スキャンを実行できない唯一の VMware Infrastructure オブジェクト タイプです。

### ベースライン

スキャンでは、ホストまたは仮想マシンの状態をベースラインと比較します。ベースラインは、サービス パック、パッチ、またはバグ フィックスなどの 1 つまたは複数のアップデートを集めて記載したものです。1 つのベースラインを検証することで、ベースラインに含まれているすべてのアップデートがそれぞれスキャン中のオブジェクトに適用されているかどうかを 1 つの手順で特定できます。

Update Manager は、VMEU のベンダーが提供するアップデート リポジトリに定期的に問い合わせ、適用可能なパッチを検出します。パッチ情報とパッチの内容を取得するサーバは、フル装備の公開鍵基盤を使用して認証されます。セキュリティを確保するために、通常パッチはベンダーによって暗号で署名され、セキュリティ保護された接続を介してダウンロードされます。

Update Manager には、次のタイプのベースラインがあります。

- **動的** 各アップデートの重要性に応じてベースラインの内容が決定されます。Windows の場合、アップデートは「重要 (critical)」または「任意 (optional)」のいずれかです。

動的ベースラインの内容は、指定された基準に適合する適用可能なアップデートに基づいて決定されます。適用可能なアップデートのセットが変化すると、動的ベースラインも同様にアップデートされます。明示的にアップデートをベースラインに含めたり除外したりできます。そして除外したアップデートは永久にそのままです。

- **固定** Update Manager で使用可能なパッチのすべてのセットから、ベースラインに含めるすべてのアップデートを手動で指定します。一般的に固定のアップデートは、システムが特定の問題に対処する用意ができていのかどうかを確認するために使用されます。たとえば、固定ベースラインを使用してパッチのコンプライアンスを検証し、Blaster などのウイルスの侵入を防ぎます。

Update Manager には、事前に準備された 4 つの動的ベースラインがあります。これらを使用して、すべての仮想マシンまたはホストをスキャンし、次のさまざまなカテゴリのパッチがすべて適用されているかどうかを判断できます。

- **重要性が高い仮想マシンのアップデート** すべての重要な Windows アップデートと仮想マシンのコンプライアンスについて検証する。
- **重要性が低い仮想マシンのアップデート** すべての任意の Windows アップデートと仮想マシンのコンプライアンスについて検証する。
- **重要性が高いホストのアップデート** すべての重要なアップデートと ESX ホストのコンプライアンスについて検証する。
- **重要性が低いホストのアップデート** すべての任意のアップデートと ESX ホストのコンプライアンスについて検証する。

また、重要なアップデートと任意のアップデートの両方を含む動的ベースラインを作成することもできます。

ベースラインの次の属性が Update Manager ユーザー インターフェイスに表示されます。

- **名前** さまざまなベースラインを識別します。名前はベースラインが作成されるときに設定され、必要に応じて変更することができます。
- **アップデート** このベースラインに含めるアップデートの数を示します。サービスパックなどの一部のアップデートには、多数の小規模のパッチが含まれています。これらの小規模のパッチは、以前個別に配布されている場合があります。アップデートの数は、ベースラインに含まれるアップデートの範囲を直接示すものではないため、この情報は量的なものではなく、質的なものを表しています。アップデートの数は、スキャンおよび修正を完了するまでにかかる時間を表します。

- **最終更新日** このベースラインにアップデートを追加したり、このベースラインからアップデートを削除したりした最終日時を示します。この日時は、動的アップデートによる自動変更、またはユーザーの手動変更によって、アップデートが変更された最終日時を反映しています。最新のアップデート情報を確認すると、ベースラインが予想通りに変更されているかどうかを知る手がかりとなります。
- **ベースラインのタイプ** 特定のベースラインのタイプを識別します。設定される値には、「動的」、「固定」、または「動的（修正済み）」があります。「動的（修正済み）」ベースラインは、動的ベースラインの基本的な基準に対して、ユーザーが特定のアップデートを含めるまたは除外するように動的ベースラインを修正したものです。

システム管理者はベースラインの新規作成、編集、無効化、または削除が可能です。さまざまなグループや事業部を持つ大規模な組織では、各グループそれぞれのベースラインを定義できます。システム管理者は、特定の文字列を検索したり、各列のヘッダをクリックしてそれらの属性でソートしたりすることで、ベースラインのリストをフィルタ処理できます。この機能は、VirtualCenter のすべてのビューで提供する機能を使用しています。

## 修正

修正は、Update Manager が ESX Server ホストまたは仮想マシンにアップデートを適用する処理のことです。スキャンが完了したら、マシンが組織の基準に適合するようにマシンを修正できます。修正すると、マシンが既知の攻撃の可能性に対して安全であり、最新のバグフィックスによって信頼性がより高まることを保証します。修正することでメリットはありますが、マシンを修正しなくてもかまいません。たとえば、アプリケーションを保証するほど重大な修正ではないと組織が判断した場合、または最新のパッチを適用すると機能しなくなるような従来の処理をマシンが実行する場合などです。

マシンのスキャンとほぼ同じ方法でマシンを修正できます。スキャンと同様に、1つの仮想マシンだけを修正できますし、また、仮想マシンのフォルダ、クラスタ、データセンター、または仮想インフラストラクチャのすべてのオブジェクトから修正の作業を開始できます。スキャンと同様に、リソース プールは、修正できない唯一の VMware Infrastructure オブジェクト タイプです。修正では次のものをサポートしています。

- Windows 仮想マシンのパワーオン、サスペンド、パワーオフ。
- Windows 仮想マシンのテンプレート。
- ESX Server ホスト バージョン 3.5.0 以降。

## Update Manager の設定

仮想マシンおよび ESX Server の修正処理は構成できます。構成オプションは次のとおりです。

- アップデートされたパッチ情報を確認するタイミング。
- 仮想マシンまたは ESX Server のスキャンまたは修正のタイミング。
- 仮想マシンの修正前スナップショットの操作方法。Update Manager は、修正前に仮想マシンのスナップショットを作成できます。スナップショットを作成するように Update Manager を設定した場合、そのスナップショットを永久に保存するように設定したり、一定期間の経過後に削除するように設定したりすることができます。
- 修正前に仮想マシンのスナップショットを作成するかどうか、作成する場合はスナップショットを保存するかどうか、保存する場合はその保存期間。
- ESX Server ホストの修正に失敗した場合の対処方法。

セキュリティ構成の詳細については、「[構成 Update Manager \(P.21\)](#)」を参照してください。



# Update Manager の操作

---

本章の手順を使用すると、ESX Server のインストール、ゲスト OS、およびアプリケーションのアップグレードとパッチの適用に役立ちます。ソフトウェアの最新のバージョンを使用すると、つねに安全でパッチが適用された環境の構築に役立ちます。

本章では、次の内容について説明します。

- [Update Manager のインストール、アップグレード、およびアンインストール](#) (P.15)
- [構成 Update Manager](#) (P.21)
- [ベースラインとの連携](#) (P.26)
- [仮想マシンと ESX Server ホストのスキャン](#) (P.32)
- [ESX ホストと仮想マシンの修正](#) (P.37)
- [Update Manager イベントとの連携](#) (P.44)

## Update Manager のインストール、アップグレード、およびアンインストール

Update Manager は、VirtualCenter インストール処理の一部としてインストールされます。すでに構築された VMware Infrastructure 環境がある場合は、同じインストーラを使用して Update Manager の機能を追加できます。

Update Manager は、VirtualCenter サーバと同じコンピュータ、または異なるコンピュータにインストールできます。Update Manager は、次のオペレーティングシステムを実行するコンピュータにインストールできます。

- Windows XP SP2 以降
- Windows Server 2003

Update Manager は、VirtualCenter 用 VMware Converter Enterprise など、VirtualCenter のほかのアドオンと互換性があります。

Update Manager Server および Update Manager Download Service は、Microsoft SQL Server または Oracle データベースにパッチのメタデータを格納します。Update Manager は表 2-1 に記載しているデータベース フォーマットをサポートしています。

**表 2-1 サポートされるデータベース フォーマット**

データベース タイプ	パッチおよびドライバの要件
SQL Server 2000	クライアント用に SQL Server のドライバを使用。
SQL Server 2005	クライアント用に SQL Native Client のドライバを使用。
Oracle 9i	サーバおよびクライアントにパッチ 9.2.0.8.0 を適用。
Oracle 10g Release 1 (10.1.0.3.0)	なし
Oracle 10g Release 2 (10.2.0.1.0)	最初にクライアントにパッチ 10.2.0.3.0 を適用してから、パッチ 5699495 を適用。

Update Manager をインストールする前に、Update Manager をインストールする環境に関する情報を収集してください。次の情報を収集します。

- Update Manager と連携する VirtualCenter サーバのネットワーク情報。場合によってはデフォルトの値が設定されていますが、次の情報が正しいことを確認する場合もあります。
  - IP アドレス
  - ポート番号。通常、web サービスのポートは使用されています。web サービスのデフォルトのポートは 443 です。
- インストールの完了に必要なシステム管理の認証情報には、次のものが含まれています。
  - 十分な権限があるアカウントのユーザー名。これは多くの場合、Root または Administrator です。
  - インストールで使用するアカウントのパスワード。

### Update Manager をインストールするには

- 1 Update Manager Server をホストするサーバの CD-ROM ドライブにインストーラ CD を入れます。
- 2 [次へ (Next)] をクリックします。
- 3 [次へ (Next)] をクリックします。

- 4 適切なオプションを選択し、[ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 5 ユーザー名および組織情報を入力し、[ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 6 [VMware VirtualCenter サーバ] を選択します。

VMware Infrastructure Client、VMware VirtualCenter サーバ、または VMware Converter Enterprise for VirtualCenter などのコンポーネントをすでにインストールしている場合、これらのコンポーネントがインストールされていることを通知するメッセージが表示され、Update Manager などのほかのコンポーネントのインストールを続行できます。

[ カスタム (Custom) ] オプションを選択すると、VMware Update Manager が使用するデータベースを構成したり、プロキシサーバの設定を変更したり、VMware Update Manager のインストール先や、パッチの格納先をカスタマイズしたりできます。

- 7 [ 次へ (Next) ] をクリックします。

[VirtualCenter サーバの権限 (VirtualCenter Server Authorization) ] ページが表示されます。

**VirtualCenter サーバの権限**  
拡張機能には、VirtualCenter サーバにアクセスするために管理者の認証情報が必要です。

VirtualCenter の認証情報

VC サーバの IP: 172.16.19.14

VC サーバのポート: 443

システム管理者: Administrator

パスワード: \*\*\*\*\* パスワードの検証: \*\*\*\*\*

これらの認証情報を使用して各拡張機能に 1 度ログインしてから、継続的な操作のために恒久的なアカウントを作成します。

権限のある拡張機能:  VirtualCenter サーバ用 VMware Converter Enterprise  
 VMware Update Manager

InstallShield

< 戻る (B)    次へ > (N)    キャンセル

- 8 この Update Manager Server が連携する、VirtualCenter サーバおよびシステム管理者アカウントの情報を入力します。
  - a [VC サーバの IP (VC Server IP) ] テキスト ボックスに、情報収集した IP アドレスを入力するか、デフォルト値を容認します。
  - b [VC サーバのポート (VC Server Port) ] テキスト ボックスには、情報収集したポート番号を入力するか、デフォルト値を容認します。

- c [システム管理者 (Administrator) ]テキスト ボックスには、このインストールを完了するために使用するシステム管理者アカウントの名前を入力します。
  - d [パスワード (Password) ]および[パスワードの確認 (Verify Password) ]テキスト ボックスには、このインストールを完了するために使用するシステム管理者アカウントのパスワードを入力します。
  - e [次へ (Next) ]をクリックします。
- 9 [インストール (Install) ]をクリックして、インストールを開始します。

## Guest Agent のインストール

Update Manager Guest Agent は、Update Manager の処理を促進します。仮想マシンが実行しているオペレーティングシステムに応じて、Guest Agent は異なるタイミングでインストールされます。Linux の場合、パワーオン状態の仮想マシンが Virtual Infrastructure インベントリに追加されたときに、Guest Agent はインストールされます。Windows の場合、修正がはじめてスケジュール設定されたとき、またはパワーオン状態の仮想マシンでスキャンが開始されたときに、Guest Agent はインストールされます。最適な結果を得るには、Guest Agent の最新バージョンがインストールされていることを確認してください。

何らかの理由で Guest Agent のインストールが正常に完了しない場合、スキャンや修正などの処理は失敗します。そのような場合は、手動で Guest Agent をインストールします。Windows および Linux ゲスト用の Guest Agent インストールパッケージは、Update Manager Server のインストール時に指定した場所にあります。そのディレクトリの、`¥ docroot ¥ vci ¥ guestAgent ¥` に Guest Agent にインストールパッケージがあります。たとえば、Update Manager が `C: ¥ Program Files ¥ VMware ¥ Infrastructure ¥ Update Manager` にインストールされている場合、Guest Agent インストーラは `C: ¥ Program Files ¥ VMware ¥ Infrastructure ¥ Update Manager ¥ docroot ¥ vci ¥ guestAgent ¥` にあります。

Guest Agent ではユーザー入力を必要としないため、インストールは静かに完了します。Windows の場合、`VMware-UMGuestAgent.exe` ファイルを実行してインストールを開始します。Linux の場合、`rpm -ivh VMware-VCIGuestAgent-Linux.rpm` コマンドを発行して、`VMware-VCIGuestAgent-Linux.rpm` ファイルをインストールします。

## Update Manager Download Service のインストール

Update Manager Download Service は、Download Service を使用しなければ Update Manager Server で使用できないアップデートをダウンロードします。たとえば、セキュリティ上の理由などで、インターネットに接続していないネットワーク上に、Update Manager を含む VMware Infrastructure をインストールする場合があります。このような場合、Update Manager が適切に機能し続けるためには、パッチ情報へアクセスする必要があります。Download Service は、このような状況に対して解決策を提供します。Download Service は次のアップデートをダウンロードします。

- ESX 3i および ESX Server 3.5
- Update Manager がサポートする Windows 仮想マシンの全バージョン

Download Service がアップデートをダウンロードしたあと、それらのアップデートを Update Manager を実行しているサーバにエクスポートできます。

Download Service をインストールしているサーバ上にアップデートを格納するために必要な容量は、パッチを適用するオペレーティングシステムとアプリケーションの種類の数、およびこのシステム上にパッチを収集する年数によって異なります。ESX Server のパッチ適用に 1 年当たり 50GB（ギガバイト）、そして各仮想マシンのオペレーティングシステムとロケールの組み合わせに対して 11GB を見込んでおくことが適切です。たとえば、Windows XP US English と Windows Server 2003 をホストするサーバを 2 年間使用してパッチを適用するには、ホスト用に 100GB、仮想マシン用に 22GB、合計 122GB が必要です。そのため、このような環境にインストールするには、パッチ用のストレージに 122GB 以上の使用可能な領域があるサーバにインストールしてください。

Download Service インストーラにはデータベースが必要です。インストールプログラムには、SQL Server 2005 Express データベースを作成するオプションが含まれています。または、既存の Microsoft SQL Server データベースや Oracle データベースを使用することもできます。

### Update Manager Download Service をインストールするには

インストール CD の `umds` フォルダにある `VMware-UMDS.exe` ファイルを開きます。ウィザードを使用して、インストールを完了します。

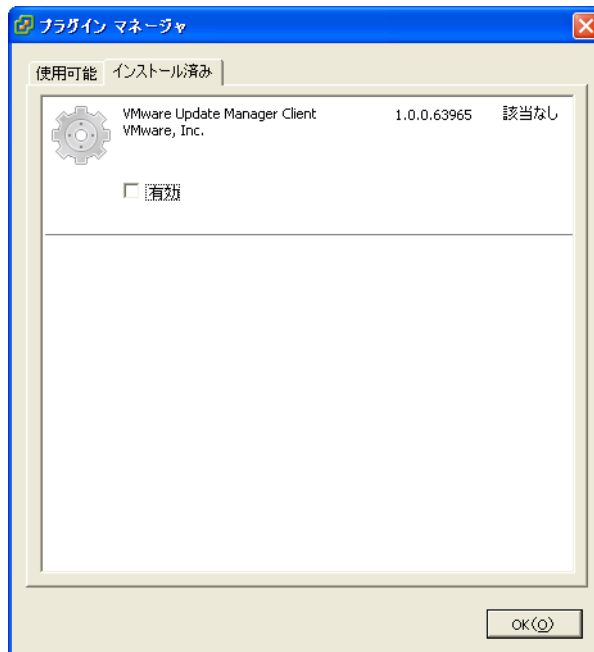
## VirtualCenter Client をアップグレードして Update Manager をサポート

VirtualCenter バージョン 2.5 以降、Update Manager Client は Virtual Infrastructure Client のプラグインとして配信されています。Update Manager の機能は VirtualCenter Client にとって不可欠な要素で、新しい Virtual Infrastructure Client は以前の VI Client リリースより優先されます。

Update Manager をインストールしたあと、Update Manager を構成できるように少なくとも 1 つのクライアントをアップデートします。すべてのクライアントをアップデートする必要はありません。Update Manager が有効な VI Client と、ほかのプラグインがあるクライアントまたはほかのプラグインがないクライアントは、衝突せずに混在した状態で所定の VirtualCenter サーバに接続できます。

### VI Client で Update Manager を有効にするには

- 1 VMware Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに、VI Client を接続します。
- 2 [ プラグイン (Plugins) ]-[ プラグインの管理 (Manage Plugins) ]を選択します。
- 3 Update Manager プラグインの [ ダウンロードとインストール (Download and install) ] をクリックします。
- 4 Update Manager Client のインストール ウィザードを完了し、[OK] をクリックします。
- 5 [ プラグイン マネージャ (Plugin Manager) ] ページで、[インストール済み (Installed) ] タブをクリックします。



VMware Update Manager Client のプラグインはすぐに使用できない可能性があります。クライアントが [インストール済み (Installed)] タブに表示されるまで、1 分程度待機する必要があるかもしれません。

- 6 [有効 (Enabled)] をクリックします。
- 7 [はい (Yes)] または [無視 (Ignore)] をクリックしてすべての [セキュリティ警告 (Security Warning)] ダイアログ ボックスを閉じたあと、[OK] をクリックします。
- 8 [Update Manager] ボタンが VI Client にすぐに表示されない場合があります。VMware Update Manager のプラグインをインストールしたあと、ボタンが表示されない場合は VI Client を再起動してください。

## Update Manager のアンインストール

Windows の [プログラムの追加と削除 (Add/Remove programs)] 機能を使用して、Update Manager を削除できます。Update Manager をアンインストールする場合、VI Client から Update Manager プラグインをアンインストールする場合があります。この場合、クライアントがインストールされているマシンで、Windows の [プログラムの追加と削除 (Add/Remove programs)] 機能を使用します。Update Manager Client が VI Client から削除されたあと、パッチのバイナリとログ データは Update Manager Server に残りますが、[Update Manager] ボタンは表示されなくなります。Update Manager はディスク領域などのコンピューティングリソースに与える影響が小さいため、明確に削除したい場合以外は、あとで使用する場合に備えて既存のインストールをそのままにしておきます。

## 構成 Update Manager

このプラグインを使用する前に、Update Manager のシステム管理設定を変更できません。システム管理設定では、次のことを決定しています。

- Update Manager が新しいアップデートをチェックする頻度。
- ゲスト仮想マシンまたは ESX Server で修正で障害が発生した場合に Update Manager が行うアクション。

## アップデートのチェック

Update Manager は、定期的に新しいアップデートをチェックするように設計されています。使用している環境に適用可能なアップデートに関する最新の情報を収集すると、Update Manager は期待通りに機能します。多くの場合、デフォルトの設定を容認します。使用している環境に、頻繁にパッチを受信するアプリケーション、または最新のパッチをすぐに受信する必要があるアプリケーションがある場合、アップデートのチェック間隔を短くできます。最新のパッチに強い関心がない場合、ネットワークトラフィックを軽減する場合、またはパッチ サーバにアクセスできない場合は、チェック間隔を長くしたり、アップデートのチェックを停止したりできます。1つのスケジュールに従ってアップデートはダウンロードされます。ユーザーはこのスケジュールを変更できます。

### アップデートのチェックを変更するには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続し、[Update Manager] をクリックします。
- 2 [プラグイン (Plugins)] - [Update Manager] - [アップデート ダウンロードのスケジュール設定 (Schedule Update Download)] を選択します。
- 3 アップデートされるダウンロードのタイプを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- 4 アップデートをダウンロードするタイミングを指定して、[次へ (Next)] をクリックします。
- 5 アドレスを指定して、アップデート ダウンロード処理の結果に関するメールを受信できます。
- 6 [次へ (Next)] をクリックします。
- 7 [終了 (Finish)] をクリックします。

## インターネット プロキシと連携して使用するための Update Manager の構成

Update Manager をインストールしたあと、インストール プログラムで [カスタム インストール (Custom Install)] オプションを使用すると、構成を変更してインターネット プロキシ サーバと連携できます。このためには、インストール処理を再起動して、新しいプロキシ構成情報を設定してください。インストール処理は「[Update Manager をインストールするには](#) (P.16)」に記述されています。

プロキシ情報を設定したあと、認証情報の設定が必要になる場合があります。

### プロキシ認証情報をアップデートするには

- 1 VMware Update Manager Server にシステム管理者でログインします。
- 2 VMware Update Manager サービスを停止します。
  - a [マイ コンピュータ (My Computer)] を右クリックして [管理 (Manage)] をクリックします。
  - b 左側のペインで、[サービスとアプリケーション (ervices and Applications)] を展開し、[サービス (Services)] をクリックします。
  - c 右側のペインで、[VMware Update Manager] を選択して [アクション (Action)] をクリックし、[停止 (Stop)] をクリックします。
- 3 Update Manager ディレクトリにある **vum-proxyAuthCfg.exe** ファイルを開きます。
- 4 アップデートされたプロキシ認証情報を設定します。
- 5 Update Manager サービスを再開します。

または、プロキシ サーバに関する情報を格納する XML ファイルを変更できます。

### プロキシ構成を手動で変更するには

- 1 Update Manager のインストール ディレクトリにある **vci-integrity.xml** ファイルを探します。
- 2 元の構成に戻す必要がある場合は、このファイルのバックアップ コピーを作成します。
- 3 次の項目を変更してファイルを編集します。

```
<proxyServer>yournewproxy.companydomain.com</proxyServer>
```

```
<proxyPort>3128</proxyPort>
```

## Update Manager Download Service の使用

Update Manager Download Service を使用する場合、ダウンロードを開始してエクスポートします。アップデートを格納する場所を決めます。アップデートを格納先に配置すると、新しくダウンロードしたアップデートを CD や USB キーのようなポータブルストレージ デバイスにエクスポートし、Update Manager Server にそれらをインポートします。インターネットに接続されていないマシンに Update Manager がインストールされている場合は、スケジュール設定されたアップデートのチェックで障害が発生します。このような場合、スケジュール設定されたアップデート チェックを無効にし、アップデートをダウンロードして Update Manager に転送するだけの手段として Download Service を使用します。

## Update Manager Download Service を使用するには

- 1 Update Manager Download Service がインストールされているマシンにログインします。
- 2 [スタート (Start)]-[ファイル名を指定して実行 (Run)]を選択し、[cmd]と入力して <Enter> を押します。
- 3 Download Service がインストールされているディレクトリに変更します。
- 4 コマンドを入力して Download Service 処理を開始します。次に例を示します。
  - アップデートをダウンロードする場合：`vmware-umds --download`
  - 2007年のアップデートを e:¥ export-depot へエクスポートする場合：  
`vmware-umds -E --dest e:¥ export-depot -s 2007-01-01T00:00:00 -t 2007-12-31T23:59:59`
- 5 ダウンロードしたものをフォルダへエクスポートしたあと、それらを Update Manager マシンへ物理的に移動します。
- 6 Update Manager のインストール フォルダにある `vmware-updateDownloadCli.exe` ユーティリティを使用して、Update Manager にアップデートをインポートします。たとえば、Windows と ESX ホストのアップデートを D ドライブからインポートするには、次のコマンドを使用します。
 

```
vmware-updateDownloadCli.exe --update-path d:¥ --config-import windows esx --vc-user administrator
```

---

**注意** また、Windows の [スケジュール設定タスク (Scheduled Task)] ウィザードを使用して、Download Service をスケジュール設定し、一定の間隔で実行できます。

---

## ゲストの修正で障害が発生した場合の対応

Update Manager は、アップデートを適用する前に仮想マシンのスナップショットを作成できます。スナップショットは、パッチを適用できなかった場合に、アップデート前の仮想マシンの状態に容易に復旧できることを保証します。ユーザーは、これらのスナップショットを無期限に保存するか、または一定期間保存するか選択できます。

- 無期限にスナップショットを保存すると、最終的に大量のディスク領域を消費して仮想マシンのパフォーマンスが低下します。しかし、これらのスナップショットは、パッチ適用時の問題に対する付加的な防備策になります。
- スナップショットを保存しないと、使用している環境のスペースを節約し、仮想マシンの最高のパフォーマンスを確保できます。また、修正を完了するまでにかかる時間が短縮する場合があります。

- 一定期間スナップショットを保存することは、ほかの2つの選択肢の折衷案です。「ゲストのスナップショットの動作を構成するには」に説明されている構成で、修正の障害に対するデフォルトの設定を決定します。それぞれの修正タスクを構成する場合に、これらのデフォルトに代わる設定を指定することができます。

### ゲストのスナップショットの動作を構成するには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続し、[Update Manager] をクリックします。
- 2 [プラグイン (Plugins)] - [Update Manager] - [設定 (Settings)] をクリックし、左側のペインで [ゲスト設定 (Guest Settings)] のエントリをクリックします。
- 3 [ロールバックを有効にするために、アップデートを適用する前に仮想マシンのスナップショットを作成します (Snapshot the virtual machines before applying updates to enable rollback)] を選択します。
- 4 スナップショットを無期限に保存するか、一定期間保存するかを設定し、[OK] をクリックします。

## ESX Server のメンテナンス モードへの切り替えで障害が発生したときの対応

Update Manager は、アップデートを適用する前に ESX Server をメンテナンス モードにします。ESX Server がメンテナンス モードになると、仮想マシンを実行し続けることができません。一貫したユーザーの操作感を確保するため、修正対象のサーバをメンテナンス モードにする前に、Update Manager はほかの ESX Server に仮想マシンを移行します。仮想マシンをほかのホストへ移行できない場合、Update Manager は次のいずれかのアクションを行います。

- **タスクを実行しない** この障害を VirtualCenter ログに記録し、それ以上のアクションは行いません。
- **リトライ** リトライ遅延時間 / 分待機してから、再度サーバをメンテナンス モードにします。
- **仮想マシンをパワーオフまたはシャット ダウンしてリトライ** 障害が発生したあと、実行中の仮想マシンをすべてパワーオフまたはシャット ダウンして、メンテナンス モードへ切り替えます。パワーオフ ボタンを使用したかのように仮想マシンはシャット ダウンします。この結果は構成によって異なります。
- **仮想マシンをサスペンドしてリトライ** VirtualCenter サーバのユーザー インターフェイスのサスペンド ボタンで VM Setting を指定したあと、実行中の仮想マシンをすべてサスペンドして、メンテナンス モードに切り替えます。

「Update Manager の障害への対応法を構成してメンテナンス モードへ切り替えるには」に説明されている構成で、修正の障害に対するデフォルトの設定を決定します。それぞれの修正タスクを構成する場合に、これらのデフォルトに代わる設定を指定することができます。

### Update Manager の障害への対応法を構成してメンテナンス モードへ切り替えるには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続し、[Update Manager] をクリックします。
- 2 [プラグイン (Plugins)] - [Update Manager] - [設定 (Settings)] をクリックし、左側のペインで [ESX ホスト設定 (ESX Host Settings)] をクリックします。
- 3 ESX Server がメンテナンス モードに切り替わらなかった場合の Update Manager の対応方法を、[障害時の対応 (Failure Response)] から選択します。
- 4 選択した [障害時の対応 (Failure Response)] オプションに対応するオプションを構成して、[OK] をクリックします。

## ベースラインとの連携

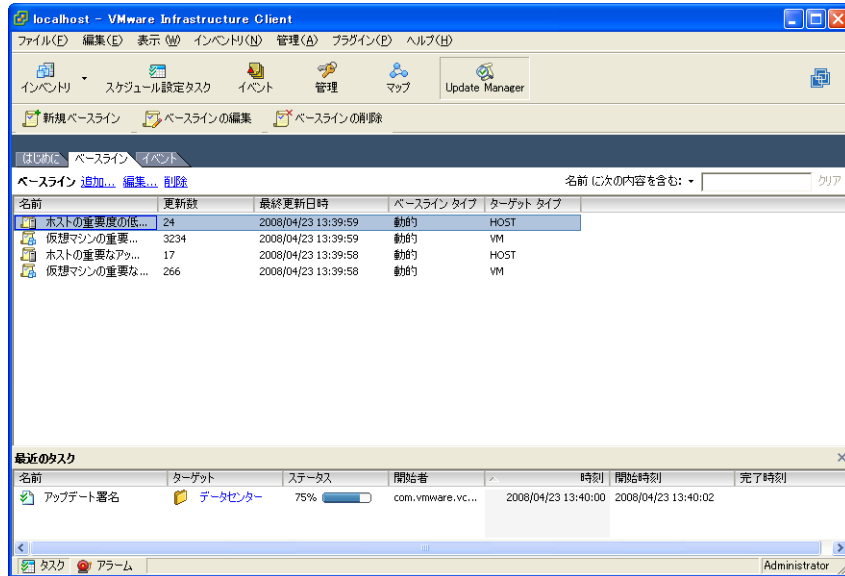
Update Manager には次の 4 つの標準ベースラインがあります。

- 重要性の低いホストのアップデート
- 重要性の低い仮想マシンのアップデート
- 重要性の高いホストのアップデート
- 重要性の高い仮想マシンのアップデート

ほとんどの導入では、特定の導入ニーズに合わせてベースラインをカスタマイズすることでメリットを得ることができます。ベースラインを追加作成すると、アップデートを論理的な集合にグループ化します。VI Client の [Update Manager] ボタンを使用して、ベースラインを管理します。このボタンは、Update Manager のプラグインがインストールされているクライアントについて、VI Client で表示されます。

図 2-1 に示すように、VirtualCenter Client の [Update Manager] ボタンをクリックすると、デフォルトのベースラインを表示できます。

図 2-1 Update Manager で使用可能なベースラインの例



## ベースラインの作成

Update Manager を使用してさらにベースラインを作成できます。[Update Manager] タブまたは [ベースライン作成ウィザード (Baseline Creation Wizard)] を使用してベースラインを作成できます。[ベースライン作成ウィザード (Baseline Creation Wizard)] は [Update Manager] タブから開始できます。これらのベースラインは、動的または固定のどちらかに設定できます。動的ベースラインは、ユーザーが定義した基準に合致するアップデートのセットで構成されます。たとえば、動的ベースラインには、重要性の高いアップデートがすべて含まれている場合があります。適用可能なアップデートが変化すると、動的ベースラインを構成するアップデート セットの内容は変化します。固定ベースラインは、ユーザーが選択した一連のアップデートで構成されています。

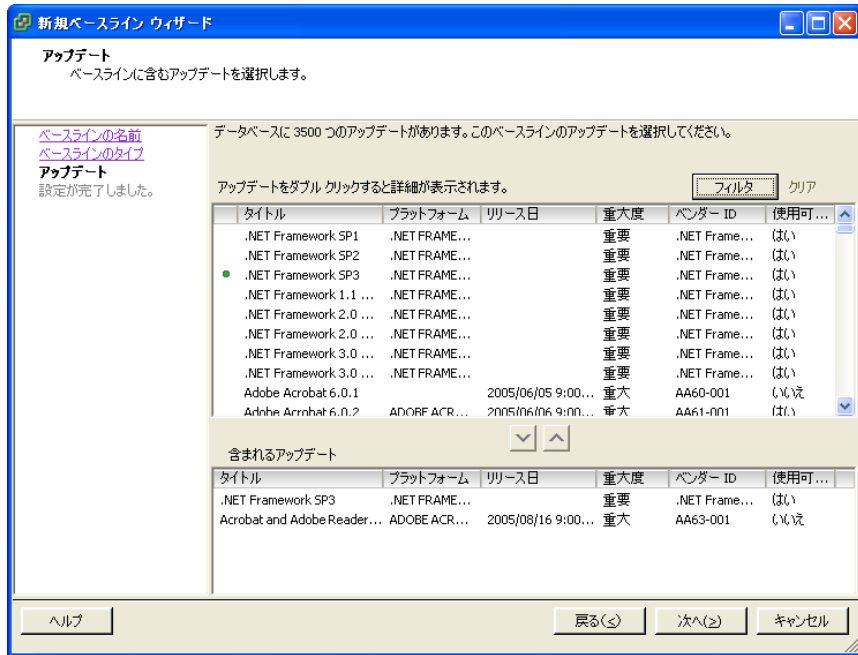
**[ベースライン作成 (Baseline Creation)] ウィザードを使用してベースラインを作成するには**

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続し、[Update Manager] をクリックします。
- 2 [追加 (Add)] をクリックします。

- 3 このベースラインに関する情報を設定します。

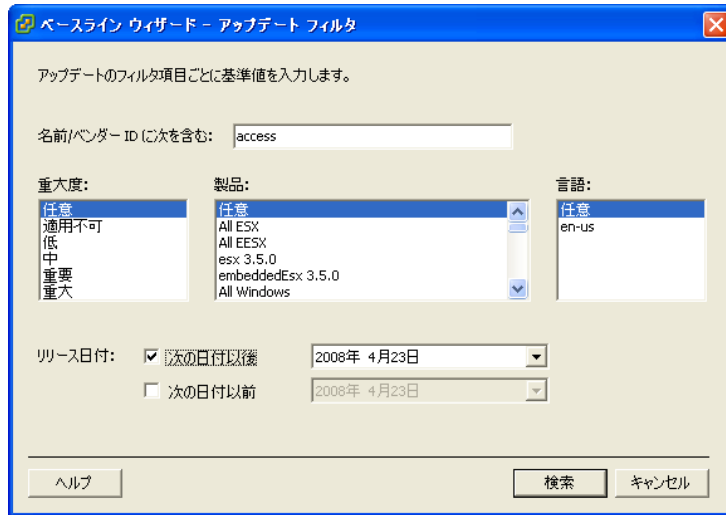
Update Manager は、1 つのベースラインを両方のターゲット タイプに適用することはサポートしていません。ベースラインは、ESX Server ホストまたは仮想マシンのどちらかに適用する必要があります。

- 4 [次へ (Next) ] をクリックします。
- 5 このベースラインに含めるアップデートのタイプを選択します。
- 6 [次へ (Next) ] をクリックします。



- 7 動的アップデートをカスタマイズします。
  - a このベースラインに含める各アップデートを選択して、下矢印をクリックします。

- b 選択する特定のアップデートを検索するには、[ フィルタの編集 (Edit Filter) ] をクリックします。



- 8 検索基準を入力して、[ 検索 (Find) ] をクリックします。
- **[ 名前 / ベンダー ID に次のテキストを含む (Name/Vendor ID Contains) ]**  
 テキストを入力して表示するアップデートを制限します。このフィールドに入力したテキストで、アップデートの名前と ID 番号を検索します。標準のワイルドカード ロジックは、これらの名前を判断するのに使用します。コンマを使用して各アイテムを区切ることで、複数の名前を入力できます。このフィールドは累積的に評価され、入力した文字列が多いほど、より多くのアップデートがベースラインに含まれる可能性があります。
  - **[ 重要度 (Severity) ]** このアップデートに含めるアップデートの重要度を選択します。
  - **[ 製品 (Product) ]** このベースラインに含めるパッチのオペレーティング システムまたは製品を選択します。適用可能なパッチだけが評価されます。つまり、複数の製品やオペレーティング システムを選択できますが、評価対象のマシンにある製品やオペレーティング システムに適用できるアップデートのみがスキャンされます。
  - **[ 言語 (Language) ]** 含めるパッチの言語バージョンを選択します。
  - **[ リリース日付 (Released Date) ]** [ 次の日付以前 (Before) ] および [ 次の日付以降 (After) ] の日付を入力して、アップデートの日付範囲を指定します。日付範囲の一方だけを指定した場合、指定した日付の前または後のすべてのアップデートが含まれます。

- 9 [ 検索 (Find) ] をクリックします。
- 10 さらにアップデートを選択します。
- 11 [ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 12 [ 終了 (Finish) ] をクリックします。

## ベースラインの編集

VI Client を使用して既存のベースラインを編集できます。

### 既存のベースラインを編集するには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続し、[Update Manager] をクリックします。
- 2 既存のベースラインを右クリックし、[ベースラインの編集 (Edit Baseline) ] をクリックします。
  - a [ベースライン名 (Baseline Name) ] をクリックして、ベースラインの名前と説明を変更します。
  - b [ベースラインのタイプ (Baseline Type) ] をクリックして、ベースラインに含めるアップデートのタイプを変更します。
  - c [アップデート (Updates) ] をクリックして、ベースラインから特定のアップデートを追加または削除します。

## ベースラインの適用

既存のベースラインを VirtualCenter インベントリのオブジェクトに適用できます。個々のオブジェクトにベースラインを適用することもできますが、一般的には、仮想マシンを含むオブジェクトにベースラインを適用するほうが効率的です。フォルダやデータセンターなどのオブジェクトにベースラインを適用すると、そのオブジェクトに含まれる仮想マシンすべてに対してベースラインを適用することになります。

### ベースラインを適用するには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続します。
- 2 ベースラインを適用する仮想インフラストラクチャ オブジェクトに移動して、[Update Manager] タブをクリックし、[ベースラインの適用 (Attach Baseline) ] をクリックします。
- 3 適用する 1 つまたは複数のベースラインを選択して、[OK] をクリックします。

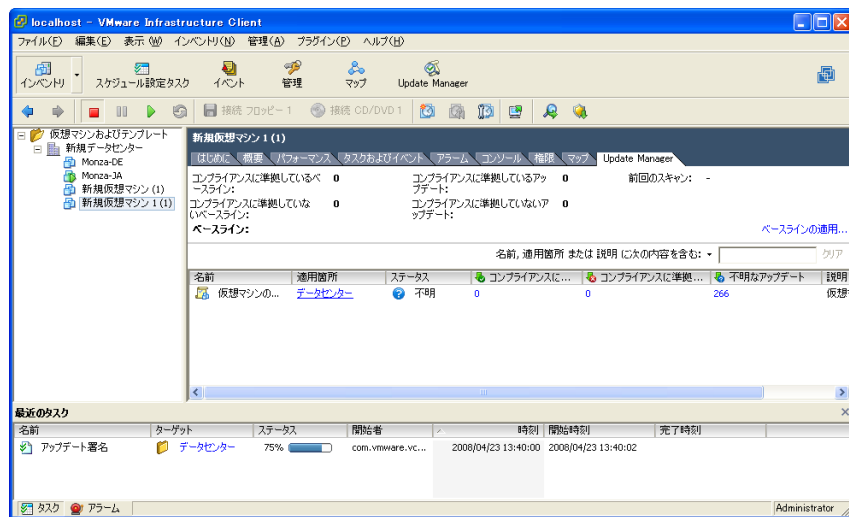
## ベースラインの解除

適用されているベースラインを解除できます。ベースラインが適用されているオブジェクトからのみ、ベースラインを解除できます。ベースライン関連も含め、VMware Infrastructure のオブジェクトは多くの場合属性を継承します。そのため、オブジェクトからベースラインを解除するには、ベースラインが適用されている親オブジェクトに移動して、そこで解除します。

### ベースラインを解除するには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続します。
- 2 ベースラインを解除する VMware Infrastructure オブジェクトへ移動し、[Update Manager] をクリックします。
- 3 解除するベースラインを検索して、どこにベースラインが適用されているか確認します。

この情報は、[適用先 (Attached At)] 列に含まれます。



- 4 ベースラインが適用されているオブジェクトに移動します。
- 5 解除するベースラインを右クリックして、[ベースラインの解除 (Detach Baseline(s))] をクリックします。

このベースラインは VMware Infrastructure から解除されました。

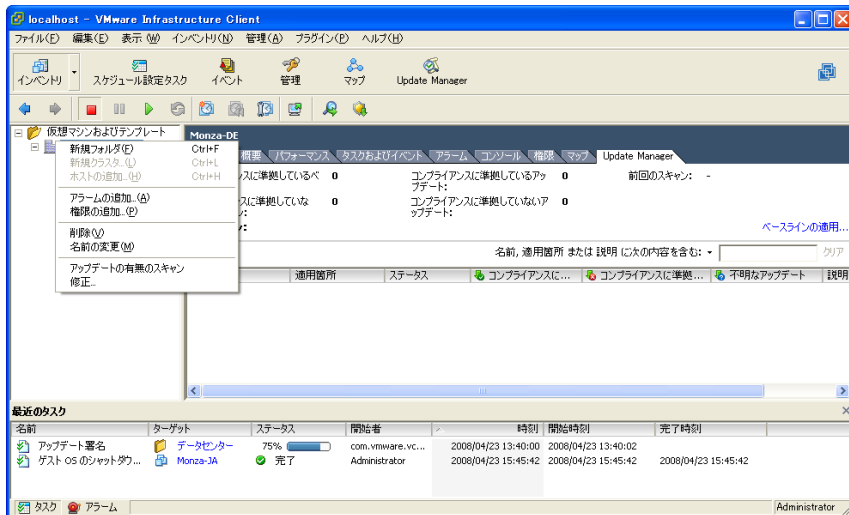
## 仮想マシンと ESX Server ホストのスキャン

事前に設定されたタスクを使用して仮想マシンと ESX Server ホストを自動的にスキャンできます、またはユーザーの要求があったときに手動でスキャンを開始することもできます。ベースラインが適用されているオブジェクトに対してスキャンを実行するとコンプライアンス情報が生成されるので、これがベスト プラクティスです。ベースラインが適用せずにオブジェクトをスキャンすることもできますが、コンプライアンス情報は生成されません。「[ベースラインの適用](#) (P.30)」を参照してください。

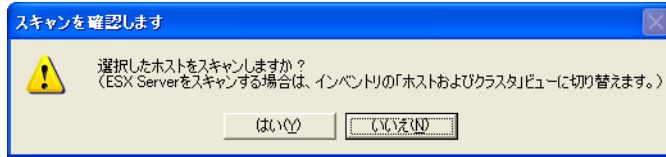
### 手動でスキャンを開始するには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続します。
- 2 [インベントリ (Inventory)] をクリックして、仮想マシンの場合は [仮想マシンおよびテンプレート (Virtual Machines and Templates)]、ESX Server の場合は [ホストおよびクラスタ (Hosts and Clusters)] をクリックします。
- 3 左側のペインで、スキャン対象のコンテナ オブジェクトを右クリックし、[アップデートのスキャン (Scan for Updates)] をクリックします。

スキャンを開始したオブジェクトの子オブジェクトもすべてスキャンされます。Virtual Infrastructure の規模が大きく、かつスキャンを開始したオブジェクトがオブジェクト階層の上位にあるほど、スキャンにかかる時間は長くなります。



そのオブジェクトと子オブジェクトをすべてスキャンするかどうか確認するメッセージが表示されます。



- 4 [はい (Yes)] をクリックします。

スキャンの結果については、「[スキャン結果の表示](#) (P.33)」を参照してください。

### スキャンをスケジュール設定するには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続し、[スケジュール設定タスク (Scheduled Tasks)] をクリックします。
- 2 [スケジュール設定タスク (Scheduled Task)] ペインを右クリックし、[新規スケジュール設定タスク (New Scheduled Task)] をクリックします。
- 3 [アップデートのスキャン (Scan for Updates)] を選択します。
- 4 スケジュール設定するスキャンのタイプを選択します。
- 5 [次へ (Next)] をクリックします。
- 6 スキャンするオブジェクトを選択します。  
選択したすべてのオブジェクトについて、そのすべての子オブジェクトも同様にスキャンされます。
- 7 [次へ (Next)] をクリックします。
- 8 タスクを実行するタイミングを、仮想マシンまたは ESX Server の状態に基づいて構成します。
- 9 [次へ (Next)] をクリックします。
- 10 完了するタスクのサマリ情報を確認し、[終了 (Finish)] をクリックします。

## スキャン結果の表示

Update Manager には、マシンがどの程度ベースラインに準拠しているか簡単に確認できる方法があります。1つの仮想マシンまたは ESX Server の結果を検査したり、または仮想マシンまたは ESX Server グループの結果を確認したりすることで、コンプライアンスを確認できます。VI Client で表示されるコンプライアンスを参照できます。ESX Server ホストの場合、[ホストおよびクラスタ (Host and Cluster)] ビューでコンプライアンスを表示できます。仮想マシンの場合、[仮想マシンおよびテンプレート (Virtual Machines and Templates)] ビューでコンプライアンスを表示できます。

次の Virtual Infrastructure コンテナ オブジェクトを含むサポート対象のグループ:

- フォルダ
- クラスタ
- データセンター

次のようにしてベースラインは仮想マシンと連携します。

- オブジェクト、オブジェクトのコンテンツ、または仮想マシンに対する参照権限がユーザーにない場合、これらのスキャン結果は表示されません。
- ベースラインに対するコンプライアンスは、表示するときに評価されます。このことは、仮想マシンのコンプライアンス情報の収集中に短時間停止する可能性があることを意味していますが、すべての情報が最新の状態であることを保証しています。
- 関連するベースラインが適用されているコンプライアンスの情報のみ提供されます。たとえば、対象のコンテナにベースラインが適用されていない場合、コンプライアンスは評価されません。同様に、コンテナに Windows XP と Windows Vista 仮想マシンがあって、Windows XP と Windows Vista パッチのベースラインがこのコンテナに適用されているケースについて考えてみます。このケースでは、Windows Vista のベースラインを使用して、Windows Vista 仮想マシンのコンプライアンスが評価され、その結果が表示されます。これらの同じ Windows Vista 仮想マシンは、Windows XP パッチを使用してコンプライアンスが評価されることはありません。その結果、それらのコンプライアンスの状態は表示されません。
- コンプライアンスの状態は、権限に基づいて表示されます。あるコンテナの参照権限はあるが、コンテナのコンテンツすべてに対する参照権限がないユーザーの場合、そのコンテナにあるすべてのエンティティのコンプライアンス情報を集約したものが示されます。ただし、「準拠 (Compliant)」「非準拠 (Non-Compliant)」「不明 (Unknown)」エンティティの数は、ユーザーの権限がある場合にのみ表示されます。

## Virtual Infrastructure オブジェクトに含まれる仮想マシンのスキャン結果の確認

Virtual Infrastructure オブジェクトに含まれるすべてのマシンでスキャンが完了した場合、その結果は要約されます。表示された情報は、ベースラインへの適合度を示すもので、詳細を示すものではありません。情報には次のものが含まれています。

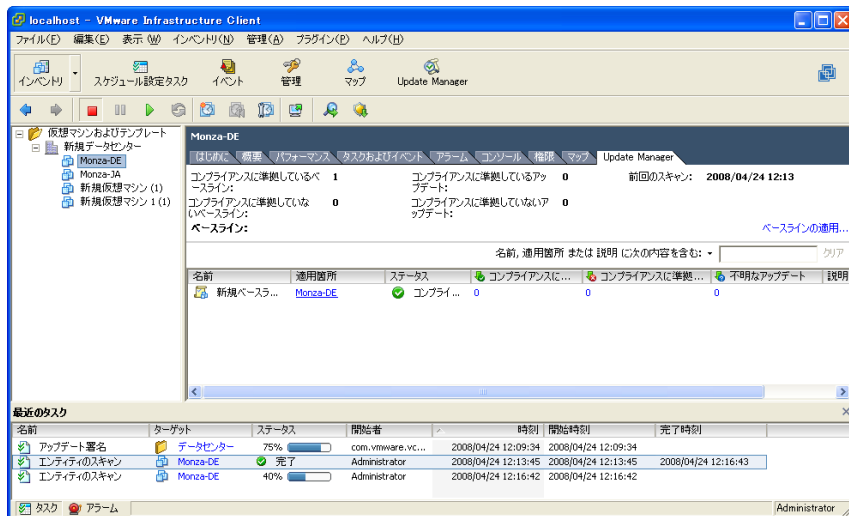
- このレベルで前回のスキャンが完了した日時。
- 準拠アップデートおよび非準拠アップデートの合計数。
- 各ベースラインごとの、「準拠」または「非準拠」の仮想マシンやホストの数。

- 各ベースラインごとの、特定の仮想マシンやホストに適用できないパッチの数。

### 仮想マシンまたは ESX Server ホストのスキャン結果を表示するには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続します。
- 2 [インベントリ (Inventory)] をクリックして、仮想マシンの場合は [仮想マシンおよびテンプレート (Virtual Machines and Templates)]、ESX Server の場合は [ホストおよびクラスタ (Hosts and Clusters)] をクリックします。
- 3 スキャン結果を表示するオブジェクトをクリックします。
- 4 [Update Manager] タブをクリックします。

そのコンテナの仮想マシンで完了したスキャン結果は、右に表示されます。

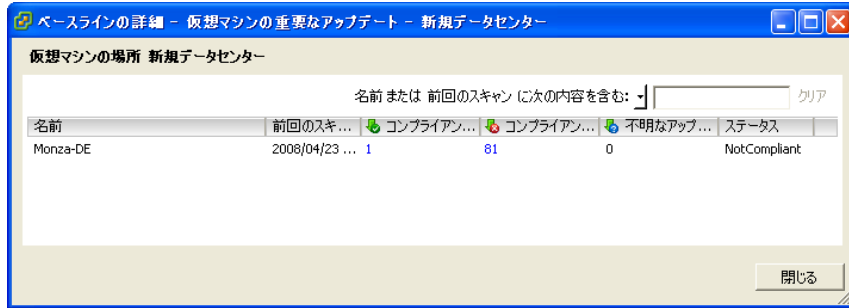


特定のベースラインのスキャン結果に関する詳細な情報を取得することができます。

## あるオブジェクトの仮想マシンのベースライン コンプライアンスに関する詳細情報を取得するには

特定のコンプライアンス状態にある仮想マシンの数を示すハイパーリンクをクリックします。

[ ベースラインの詳細 (Baseline Details) ] ウィンドウが表示されます。



ベースラインのすべてのアップデートを使用して、特定のマシンのコンプライアンスに関する詳細情報を取得できます。

## 特定のアップデートを使用して仮想マシンのベースライン コンプライアンスに関する詳細情報を取得するには

準拠しているまたは準拠していないアップデートの数を示すハイパーリンクをクリックします。

[ 仮想マシン コンプライアンスの詳細 (Virtual Machine Compliance Details) ] ウィンドウが表示されます。



## 各仮想マシンおよび ESX ホストのスキャン結果を確認

特定の仮想マシンや ESX ホストでスキャンが完了した場合、詳細な結果が得られません。表示された情報は、ベースラインへの適合度を示すもので、詳細を示すものではありません。表示される情報には次のものがあります。

- このレベルで前回のスキャンが完了した日時。
- 準拠または準拠していないベースラインとアップデートの合計数。

### 仮想マシンのスキャン結果を確認するには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続します。
- 2 [インベントリ (Inventory)] をクリックして、[仮想マシンおよびテンプレート (Virtual Machines and Templates)] をクリックします。そのあと、個々の仮想マシンを選択するか、またはデータセンターなどの VMware Infrastructure オブジェクトを選択してそのオブジェクトのすべての仮想マシンの状態を参照します。
- 3 [Update Manager] タブをクリックします。

### ESX ホストのスキャン結果を確認するには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続します。
- 2 [インベントリ (Inventory)] をクリックして、[ホストおよびクラスター (Hosts and Clusters)] をクリックします。そのあと、個々の ESX ホストを選択するか、またはデータセンターなどの VMware Infrastructure オブジェクトを選択して、そのオブジェクトにあるすべてのホストの状態を確認します。
- 3 [Update Manager] タブをクリックします。

## ESX ホストと仮想マシンの修正

ユーザーが起動した修正や定期的にスケジュール設定された修正によって、マシンを修正できます。

テンプレートはある種の仮想マシンなので、テンプレートも修正できます。特にテンプレートがシール状態の場合は、修正前にテンプレートのスナップショットを作成することをお勧めします。シール状態のテンプレートは、オペレーティングシステムのインストールが完了する前に停止されます。そして、このテンプレートから作成された仮想マシンがセットアップモードで起動するように、特別なレジストリ キーが使用されます。このような仮想マシンが起動すると、セットアップ処理の最終手順はユーザーが行うことになり、ユーザーは最後のカスタマイズが可能になります。

シール状態のテンプレートの修正を完了するためには、テンプレートを仮想マシンとして起動する必要があります。このために、仮想マシンをセットアップモードで起動する特別なレジストリ キーは記録されて、削除されます。テンプレートを起動して修正したあと、レジストリ キーは復元され、マシンはシャット ダウンされて、テンプレートをシールされた状態に戻します。

エラーが発生すると、テンプレートはシール状態に戻りません。たとえば、修正中に Update Manager は VirtualCenter サーバとの接続が切断されると、テンプレートはシール状態には戻りません。修正前にスナップショットを作成すると、この状態からの復旧を容易にします。

## ゲストのシャットダウン

修正処理をすぐに完了することを選択した場合、再起動が必要になると、修正処理の最後でマシンは再起動されます。修正対象マシンにログインしているユーザーに対してダイアログ ボックスが表示され、間もなくシャットダウンされることを知らせます。

ユーザーは最大で 60 分までシャットダウンを延期できます。[OK] をクリックしたあと、タスク バーに再起動を知らせるダイアログ ボックスが表示されます。指定した時間が経過したあと、シャットダウンする前に最後の時計が表示されます。

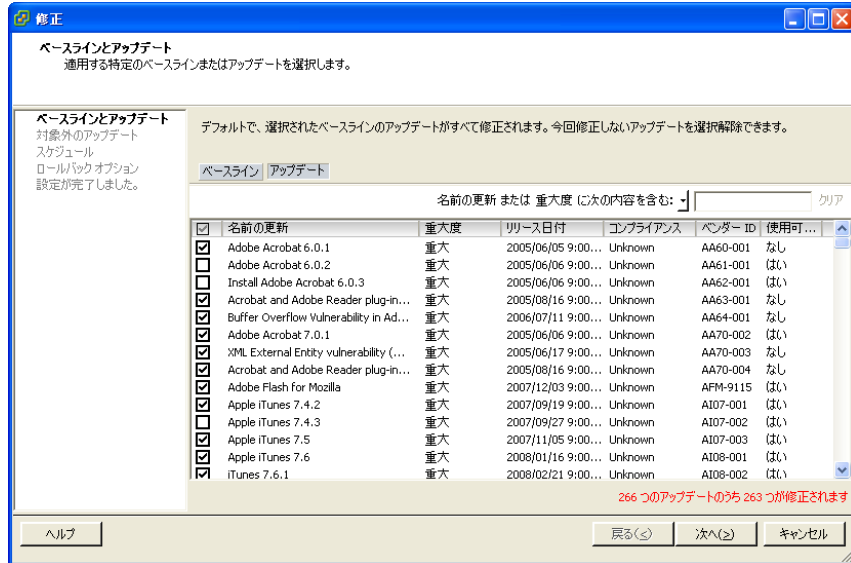
## 手動による仮想マシンの修正

ユーザーは、その都度仮想マシンを手動で修正できます。

### 手動で修正を開始するには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続します。
- 2 [インベントリ (Inventory)] をクリックして、[仮想マシンおよびテンプレート (Virtual Machines and Templates)] をクリックします。
- 3 [Update Manager] タブをクリックします。
- 4 修正するオブジェクトを右クリックして、[修正 (Remediate)] をクリックします。  
修正を開始したオブジェクトの子オブジェクトもすべて修正されます。Virtual Infrastructure の規模が大きく、かつ修正を開始したオブジェクトがオブジェクト階層の上位にあるほど、この処理にかかる時間は長くなります。
- 5 修正するベースラインを選択します。
- 6 修正プロセスから個別のアップデートを除外するには、[アップデート (Updates)] をクリックします。

[ 修正 (Remediation) ] ウィザードの [ ベースラインとアップデート (Baselines and Updates) ] ページが表示されます。



- 7 修正に含める、または修正から除外するアップデートを選択し、[ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 8 除外するアップデートのリストを確認して、[ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 9 仮想マシンの状態を基準にして修正アクションを完了するタイミングを選択し、[ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 10 ロールバックをサポートするために作成されたスナップショットのオプション (スナップショットの名前と説明を含む) を選択します。[ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 11 完了するタスクのサマリ情報を確認し、[ 終了 (Finish) ] をクリックします。

## 手動による ESX Server の修正

ユーザーは、その都度 ESX Server ホストを手動で修正できます。

### 手動で修正を開始するには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続します。
- 2 [インベントリ (Inventory)] をクリックして、[ ホストおよびクラスター (Hosts and Clusters) ] をクリックします。
- 3 [Update Manager] タブをクリックします。
- 4 修正するオブジェクトを右クリックして、[修正 (Remediate)] をクリックします。  
修正を開始したオブジェクトの子オブジェクトもすべて修正されます。Virtual Infrastructure の規模が大きく、かつ修正を開始したオブジェクトがオブジェクト階層の上位にあるほど、この処理にかかる時間は長くなります。
- 5 修正するベースラインを選択します。
- 6 修正プロセスから個別のアップデートを除外するには、[アップデート (Updates)] をクリックします。
- 7 修正に含める、または修正から除外するアップデートを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- 8 除外するアップデートのリストを確認して、[次へ (Next)] をクリックします。
- 9 修正アクションを完了するタイミングと、修正処理で障害が発生した場合の対応オプションを選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- 10 完了するタスクのサマリ情報を確認し、[終了 (Finish)] をクリックします。

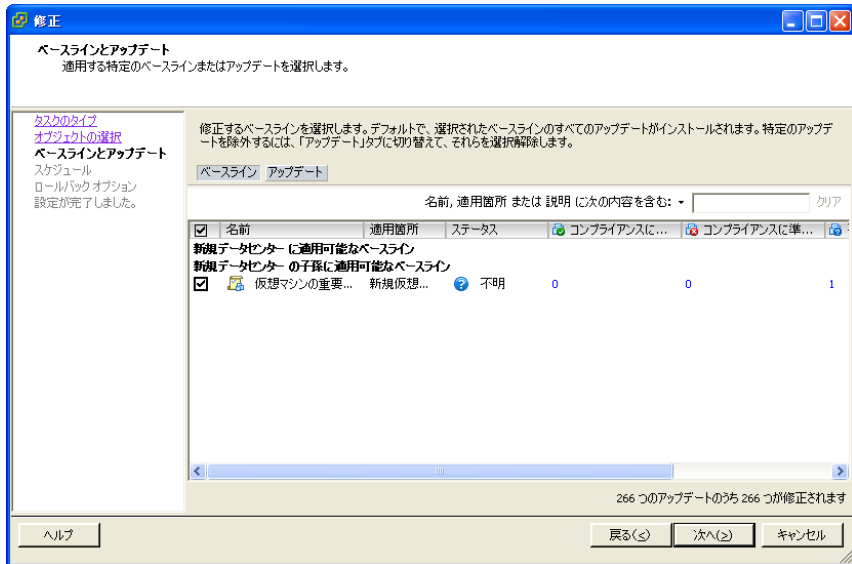
## スケジュール設定による仮想マシンの修正

スケジュール設定タスクを使用して、事前に設定した時間に仮想マシンを修正することができます。

### 仮想マシン修正のスケジュールを設定するには

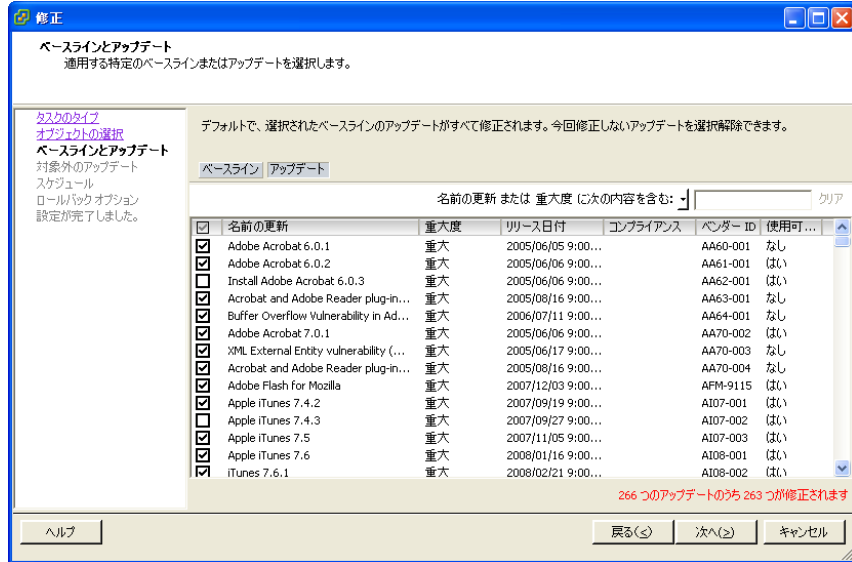
- 1 [スケジュール設定タスク (Scheduled Task)] ペインを右クリックし、[新規スケジュール設定タスク (New Scheduled Task)] をクリックします。
- 2 [修正 (Remediate)] を選択し、[OK] をクリックします。
- 3 [仮想マシン / ゲスト OS (Virtual Machines / Guest Operating Systems)] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- 4 この修正を適用するオブジェクトを選択します。  
選択したオブジェクトの子オブジェクトも修正されます。

- 5 [次へ (Next)] をクリックします。



- 6 修正するベースラインを選択します。
- 7 修正プロセスから個別のアップデートを除外するには、[アップデート (Updates)] をクリックします。

[ 修正 (Remediate) ] ウィザードの [ アップデート (Updates) ] ページが表示されます。



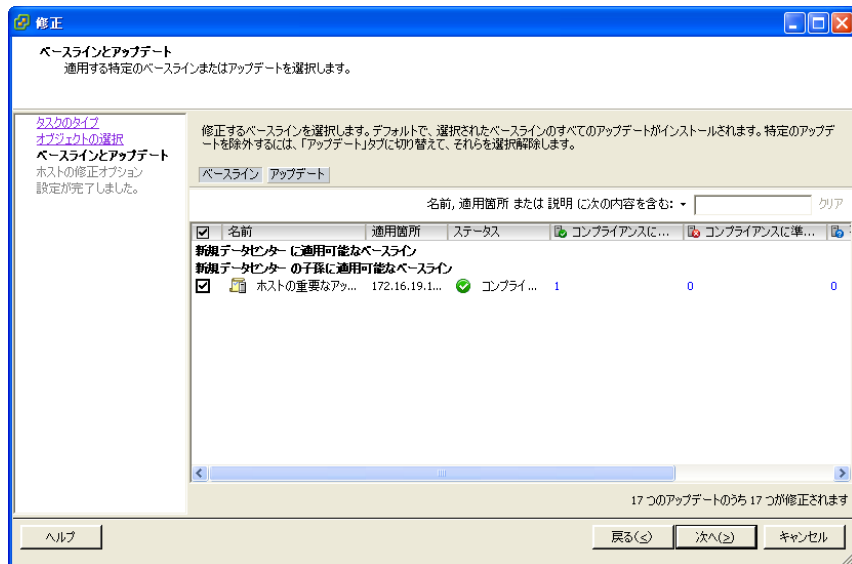
- 8 修正に含める、または修正から除外するアップデートを選択し、[ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 9 除外するアップデートのリストを確認して、[ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 10 仮想マシンの状態に応じてタスクを実行するタイミングを構成し、[ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 11 ロールバックをサポートするために作成されたスナップショットのオプション (スナップショットの名前と説明を含む) を選択し、[ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 12 完了するタスクのサマリ情報を確認し、[ 終了 (Finish) ] をクリックします。

## スケジュール設定による ESX Server の修正

スケジュール設定タスクを使用して、事前に設定した時間に ESX Server ホストを修正することができます。

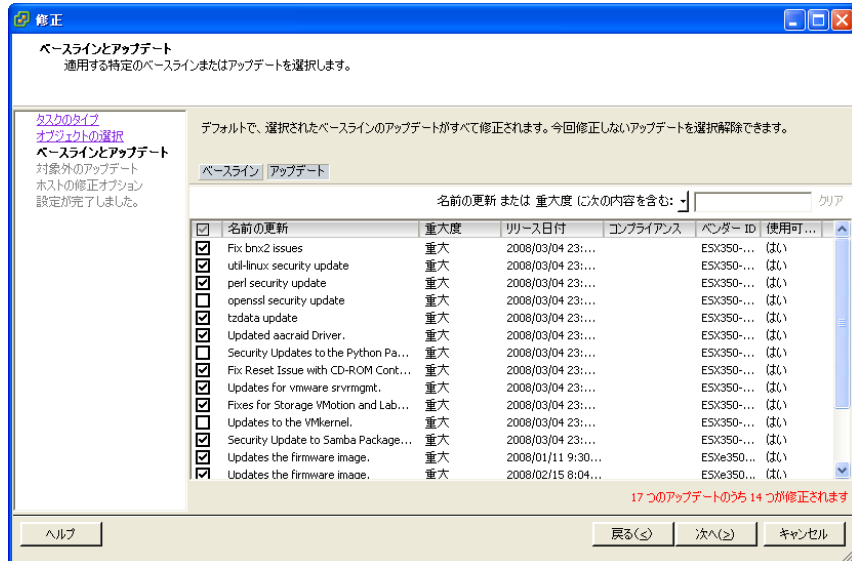
## ESX Server の修正をスケジュール設定するには

- 1 [スケジュール設定タスク (Scheduled Task) ] ペインを右クリックし、[ 新規スケジュール設定タスク (New Scheduled Task) ] をクリックします。
- 2 [ 修正 (Remediate) ] を選択し、[OK] をクリックします。
- 3 [ESX Server] を選択して、[ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 4 この修正を適用するオブジェクトを選択します。  
選択したオブジェクトの子オブジェクトも修正されます。
- 5 [ 次へ (Next) ] をクリックします。  
[ベースラインとアップデート (Baselines and Updates) ] ページが表示されます。



- 6 修正するベースラインを選択します。  
修正プロセスから個別のアップデートを除外するには、[ アップデート (Updates) ] をクリックします。

[ 修正 (Remediate) ] ウィザードの [ アップデート (Updates) ] ページが表示されます。



- 修正に含める、または修正から除外するアップデートを選択し、[ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 除外するアップデートのリストを確認して、[ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 修正を行うタイミング、および修正で障害が発生した場合の対応方法を含めた修正オプションを選択し、[ 次へ (Next) ] をクリックします。
- 完了するタスクのサマリ情報を確認し、[ 終了 (Finish) ] をクリックします。

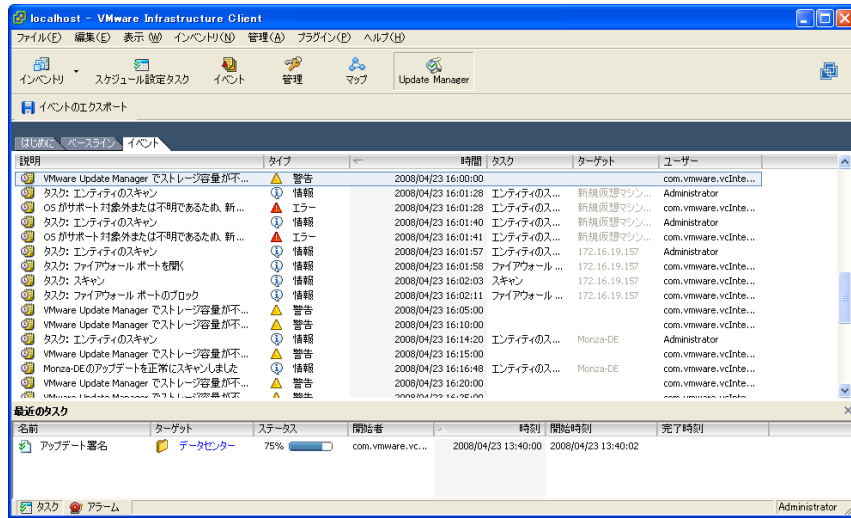
## Update Manager イベントとの連携

Update Manager はイベントに関するデータを格納します。このイベント データを確認して、処理中または完了済みの Update Manager 操作に関する情報を収集できます。すべてのイベントに関する情報を参照するには、「[イベント \(P.51\)](#)」を参照してください。

### イベントを確認するには

Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続し、[Update Manager] をクリックします。

最新のイベントに関する情報が表示されます。



### イベントをエクスポートするには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバに VI Client を接続し、[Update Manager] をクリックします。
- 2 [イベント (Events)] タブをクリックして、[イベントのエクスポート (Export Events)] をクリックします。
- 3 イベントのエクスポート方法に関する情報を設定し、[保存 (Save)] をクリックします。
  - a イベントを保存するファイルの名前を設定します。
  - b イベントを保存するフォーマットを選択します。使用可能なフォーマットには、Excel スプレッドシート、HTML (CSS あり/なし)、カンマ区切りのファイル、XML があります。

選択したビューアを使用してエクスポートしたイベントを確認します。



# 操作参考資料

---

最低限の管理操作だけで自動的に実行するために、Update Manager を規定の導入のままにしておくことができます。ただし、Update Manager でさらに最適化が必要となった場合は、この章の情報を参照してください。

この章では、次の内容について説明します。

[一般的な問題と解決策](#) (P.47)

[イベント](#) (P.51)

## 一般的な問題と解決策

このセクションでは、Update Manager で問題が発生する可能性がある、一般的な問題について説明します。

### ログ ファイルの収集

診断するために Update Manager Server で発生した最近のイベント情報を収集するには、サポート スクリプト (`vum-support.wsf`) が提供する Generate Update Manager のログバンドル機能を使用します。

#### Update Manager ログバンドルを生成するには

- 1 Update Manager がインストールされている VirtualCenter サーバにログインします。
- 2 [スタート (Start)] - [VMware] - [Update Manager ログバンドルの生成 (Generate Update Manager log bundle)] を選択します。

ログ ファイルは zip ファイル形式で生成され、現在のユーザーのデスクトップに保存されます。

## ベースラインでアップデートを使用できない

ベースラインは、Update Manager が Shavlik および ヴィエムウェアの Web サイトからダウンロードしたメタデータをベースとしています。Shavlik は仮想マシンおよびアプリケーション用のメタデータを提供しており、ヴィエムウェアは ESX Server ホスト用のメタデータを提供しています。Update Manager が Shavlik サーバに接続できないことが、ベースラインでアップデートを使用できない主な理由です。Update Manager といくつかのリンクを含むウェブサイトとの接続において、何らかの障害が発生すると、ベースラインのアップデートを使用できなくなる可能性があります。例として、可能性のある原因と解決策のいくつかを次に示します。

- Shavlik の Web サイトを使用できない。Shavlik の Web サイトを確認して、使用できる状態かどうか特定してください。Shavlik の Web サイトの URL は、<http://www.shavlik.com> です。
- VMware アップデート サービスが、ESX Server のアップデートに関する情報を提供できない。
- Web サーバのプロキシ構成に誤りがある。詳細については、「[インターネット プロキシと連携して使用するための Update Manager の構成](#) (P.22)」を参照してください。
- ネットワークの接続状況が良くない。ネットワークを使用するほかのアプリケーションが、期待通りに機能しているかどうか確認してください。ネットワーク管理者に連絡して、ネットワークが期待通りに機能しているかどうか評価してもらってください。

## コンプライアンス レポートのアップデートすべてが「適用不可 (Not Applicable)」

スキャンした結果、すべてのベースラインが「適用不可 (Not Applicable)」になる場合があります。このような状況は、通常スキャン中にエラーが発生していることを示しています。ScanTasks のサーバ ログで、「失敗 (Failed)」と記録されていないか確認してください。

スキャンの結果には、たいてい「インストール済み (Installed)」、「なし (Missing)」、「適用不可 (Not Applicable)」の結果が混在しています。たとえば、通常は Linux パッチで構成されるベースラインは、Windows マシンでは「適用不可 (Not Applicable)」になります。一般的に、「適用不可 (Not Applicable)」のエントリは、すべての結果が「適用不可 (Not Applicable)」の場合、または適用できることがわかっているパッチが「適用不可 (Not Applicable)」であった場合にのみ問題になります。

スキャン操作を再度行なってください。問題が発生し続ける場合は、ログを収集して VMware サポートに協力を要請してください。ログを収集するには、「[Update Manager ログ バンドルを生成するには](#) (P.47)」を参照してください。

## コンプライアンス レポートのアップデートがすべてが「不明 (Unknown)」

スキャンの結果に「不明 (Unknown)」と記録されることがあります。このような状況の場合は、通常、スキャン処理の開始時にエラーが発生していることを示します。また、スキャンが行われていないことを示している場合もあります。スキャンをスケジュール設定するか、手動でスキャンを開始すると、この問題は解決する可能性があります。

## アップデートを修正したあとも「非準拠 (NonCompliant)」の状態が続く

Windows 仮想マシンの場合、レジストリを確認してアップデートがインストールされていないことを確認してください。問題のアップデートに関する、Microsoft KB (ナレッジベース) の番号を検索してください。次の2つのサイトです。

- 仮想マシンのレジストリ `HKLM\Software\Microsoft\Updates\KB Number`
- 仮想マシンのファイル システム `C:\Windows\NTUninstall\KB Number`

この問題の一般的な説明には、次のものがあります。

- Service Pack をインストールするのに十分なディスク領域がない。ディスク領域を開放したあと、再度修正してください。
- 実行中のアプリケーションと衝突している。仮想マシンを再起動してから、再度修正してください。

## 「アップデートをすべて (All Update)」または「重要なアップデートをすべて (All Critical Updates)」を使用して仮想マシンの修正が失敗

いくつかの事例では、デフォルトの「アップデートをすべて (All Updates)」ベースラインまたは「重要なアップデートをすべて (All Critical Updates)」ベースラインを使用して仮想マシンの修正が失敗します。この問題は、通常次のいずれかの場合に発生します。

- **修正が完了できない** ある仮想マシンで修正が停止している可能性があります。まれに、パッチ アプリケーションが一部の修正を完了したあとにメッセージ ボックスを表示したためにこの問題が発生します。パッチは Update Manager Guest Agent によって適用されます。Update Manager Guest Agent はローカルシステムで稼働します。このように実行すると、ユーザーがパッチ アプリケーションの処理に干渉されることはありません。ただし、この場合は、エラー メッセージが表示されないため、承認したりキャンセルしたりという確認を行うことはできません。その結果、パッチ アプリケーションの処理は完了できません。

この問題を解決するには、ゲストのタスク マネージャからパッチ処理を終了します。問題の原因となっているパッチを識別するには、VI Client でその仮想マシンのイベントを調べます。Update Manager は必要に応じて、パッチ インストールの開始と、完了を識別するためにエラーコードとともにイベントを送信します。最新のイベントが、パッチ インストールが開始しているにもかかわらず、完了していないことを示している場合、そのアップデートの名前を使用してパッチ処理を識別します。Microsoft のパッチは、通常そのファイル名にナレッジ ベースの番号を含んでいるため容易に識別できます。

- **一部のパッチの修正が失敗する** ただちにパッチを使用できない場合があります。たとえば、テストでは、英語以外の言語にローカライズされた Windows バージョン、または 64 ビット アプリケーション用パッチを使用できない可能性があることが示されます。[タスクとイベント (Tasks and Events)] タブで、適用されなかったパッチがダウンロードされていないことを確認します。
- **修正が完了したにもかかわらずベースラインが適合しない** この状況は、パッチを適用したことによってほかのパッチを適用できるようになった場合に発生します。たとえば、あるパッチはサービス パックを適用したあとにのみ適用できます。そのためそのサービス パックを適用した場合、修正を開始するとすべての既知の問題が解消される可能性があります。しかし、サービス パックを適用するとほかのパッチが適用可能になります。

このような状況では、繰り返し修正してください。

## ESX Server のスキャンが失敗する

ESX Server のスキャンの失敗は、権限が不足している場合、または SSL 構成に問題がある場合に多くみられます。スキャンの実行に使用しているアカウントに十分な権限があり、SSL 接続が適切に構成されていることを確認してください。

## イベント

Update Manager は、通常処理時にイベントを生成します。このイベントを使用すると、システムが実行中の処理を識別できます。

表 3-1 Update Manager イベント

タイプ	メッセージ テキスト	情報
情報	ゲスト アップデート メタデータを正常にダウンロードしました。新しいアップデート： <i>number of updates</i>	
エラー	ゲスト アップデート メタデータのダウンロードに失敗しました	ネットワーク接続をチェックして、メタデータ ソースにアクセスできることを確認してください。
情報	UNIX 用のゲスト アップデート メタデータを正常にダウンロードしました。新しいアップデート： <i>number of updates</i>	
エラー	UNIX 用ゲスト アップデート メタデータのダウンロードに失敗しました	ネットワーク接続をチェックして、メタデータ ソースにアクセスできることを確認してください。
情報	ホスト アップデート メタデータを正常にダウンロードしました。新しいアップデート： <i>number of updates</i>	
エラー	ホスト アップデート メタデータのダウンロードに失敗しました	ネットワーク接続をチェックして、メタデータ ソースにアクセスできることを確認してください。
情報	ゲスト アップデート パッケージを正常にダウンロードしました。新しいパッケージ： <i>number of guest update packages</i>	
エラー	ゲスト アップデート パッケージのダウンロードに失敗しました	ネットワーク接続をチェックして、アップデート ソースにアクセスできることを確認してください。
情報	UNIX 用ゲスト アップデート パッケージを正常にダウンロードしました。新しいパッケージ： <i>number of guest update packages</i>	
エラー	UNIX 用ゲスト アップデート パッケージのダウンロードに失敗しました	ネットワーク接続をチェックして、アップデート ソースにアクセスできることを確認してください。

表 3-1 Update Manager イベント (続き)

タイプ	メッセージ テキスト	情報
情報	ホスト アップデート パッケージを正常にダウンロードしました。新しいパッケージ: <i>number of guest update packages</i>	
エラー	ホスト アップデート パッケージのダウンロードに失敗しました	ネットワーク接続をチェックして、アップデート ソースにアクセスできることを確認してください。
情報	<i>data.Updates</i> のアップデートを正常にスキャンしました	
エラー	<i>virtual machine or ESX_Server name</i> のアップデートのスキャンに失敗しました	
警告	<i>virtual machine or ESX Server name</i> のスキャン中に警告が発生しました。不明なアップデートが検出されました: <i>Update name</i> 。アップデートを再度ダウンロードすると、この問題が解決する可能性があります。	
エラー	無効な状態のため <i>virtual machine name</i> のアップデートのスキャンに失敗しました: 仮想マシンの状態	仮想マシンの状態を確認してください。スキャンを円滑に行うために、仮想マシンを再起動することを検討してください。
エラー	無効な状態のため <i>ESX Sever name</i> のアップデートのスキャンに失敗しました: <i>ESX Server</i> の状態	ESX の状態を確認してください。スキャンを円滑に行うために、ホストを再起動することを検討してください。
情報	<i>virtual machine or ESX Server name</i> の修正に成功しました	
エラー	<i>virtual machine or ESX Server name</i> の修正に失敗しました。 <i>error message</i>	ターゲットの状態を確認してください。修正を円滑に行うために、ターゲットを再起動することを検討してください。
エラー	無効な状態のため <i>virtual machine name</i> のアップデートの修正に失敗しました: <i>data.state.@enum.VirtualMachine.ConnectionState</i>	仮想マシンの状態を確認してください。修正を円滑に行うために、仮想マシンを再起動することを検討してください。

表 3-1 Update Manager イベント (続き)

タイプ	メッセージ テキスト	情報
エラー	無効な状態のため <i>ESX Server Name</i> のアップデートの修正に失敗しました： <i>data.state.@enum.HostSystem.Connection State</i>	ESX Server の状態を確認してください。修正を円滑に行うために、ホストを再起動することを検討してください。
エラー	オペレーティング システムがサポートされていない、またはオペレーティング システムが不明のため <i>virtual machine name</i> のスキャンまたは修正に失敗しました： <i>data.os</i>	
エラー	<i>virtual machine name</i> を修正できません： Linux 仮想マシンの修正はサポートされていません	
情報	Update Manager のダウンロード アラート (重要 / 合計)：ESX <i>data.esxCritical/data.esxTotal</i> ; Windows <i>data.windowsCritical/data.windowsTotal</i> ; Linux <i>data.linuxCritical/data.linuxTotal</i>	ダウンロードされたアップデート数の情報を設定してください。
エラー	ホスト <i>host.name</i> のバージョン <i>data.version</i> がサポートされていないため、 <i>vm.name</i> のアップデートのスキャンに失敗しました	スキャンできる仮想マシンについての最新情報は、『リリース ノート』を参照してください。
エラー	ホスト <i>host.name</i> のバージョン <i>data.version</i> がサポートされていないため、 <i>vm.name</i> のアップデートの修正に失敗しました	スキャンできるホストについての最新情報は、『リリース ノート』を参照してください。
エラー	<i>host.name</i> のバージョン <i>data.version</i> がサポートされていないため、 <i>host.name</i> のアップデートのスキャンに失敗しました	ESX Server 3.5 以降および ESX Server 3i 以降のホストをスキャンできます。スキャンできる仮想マシンについての最新情報は、『リリース ノート』を参照してください。
エラー	<i>host.name</i> のバージョン <i>data.version</i> がサポートされていないため、 <i>host.name</i> のアップデートの修正に失敗しました	ESX Server 3.5 以降および ESX Server 3i 以降のホストをスキャンできます。スキャンできる仮想マシンについての最新情報は、『リリース ノート』を参照してください。
情報	Update Manager Guest Agent が <i>vm.name</i> に正常にインストールされました	

表 3-1 Update Manager イベント (続き)

タイプ	メッセージ テキスト	情報
エラー	<i>vm.name</i> への Update Manager Guest Agent のインストールに失敗しました	仮想マシンの修正には、Update Manager Guest Agent が必要です。Update Manager Guest Agent のインストールの詳細については、『Update Manager システム管理ガイド』を参照してください。
エラー	VMware Tools がインストールされていないか、VMware Tools バージョンに互換性がないため、 <i>vm.name</i> への Update Manager Guest Agent のインストールに失敗しました。必要なバージョンは <i>data.requiredVersion</i> で、インストールされているバージョンは <i>data.installedVersion</i> です。	
エラー	操作に必要な <i>data.name</i> の Update Manager ライセンスがありません。	目的のタスクを実行するために、必要なライセンスを取得することを検討してください。
エラー	Update Manager のストレージスペースが不足しています。場所： <i>data.Volume</i> 。使用可能なスペース： <i>data.FreeSpace</i>	さらにストレージを追加することを検討してください。
エラー	Update Manager のストレージスペースがきわめて不足しています。場所： <i>data.Volume</i> 。使用可能なスペース： <i>data.FreeSpace</i>	さらにストレージを追加することを検討してください。
エラー	<i>vm.name</i> で Update Manager Guest Agent の応答がタイムアウトになりました。仮想マシンがパワーオン状態で、Guest Agent が実行中であることを確認してください。	
エラー	<i>vm.name</i> での Update Manager Guest Agent との通信で内部エラーが発生しました。仮想マシンがパワーオン状態であることを確認し、再度処理を実行してください。	
エラー	<i>vm.name</i> で要求された処理の実行中に不明な内部エラーが発生しました。ログで詳細を確認し、再度処理を実行してください。	
エラー	<i>data.entityName</i> へのアップデート <i>data.updateId</i> のインストールに失敗しました	
情報	<i>data.entityName data.message</i> にアップデート <i>data.updateId</i> をインストールします	
情報	Sysprep 設定をリストアします。	

表 3-1 Update Manager イベント (続き)

タイプ	メッセージ テキスト	情報
情報	修正中は Sysprep は無効です。	
情報	親なし仮想マシン <i>vm.name</i> のスキャンに失敗しました	
情報	親なし仮想マシン <i>vm.name</i> の修正に失敗しました	
エラー	次のアップデートのパッチ ダウンロードに失敗しました: <i>data.message</i>	ネットワーク接続をチェックして、パッチ ソースにアクセスできることを確認してください。



# インデックス

## E

### ESX Server

- 修正の障害 25 ～ 26
- スキヤンの失敗 48、50

### ESX Server ホスト

- スキヤン 32 ～ 33

### ESX スキヤン

- 確認 37

## G

### Guest Agent

- インストール 18

## U

### Update Manager

- VI Client サポート 19 ～ 21
- アンインストール 21
- インストール 15 ～ 18
- 構成 21 ～ 26

### Update Manager Download Service

- インストール 19

## ア

### アップデート

- ダウンロード 9

### アンインストール

- Update Manager 21

## イ

### イベント 51 ～ 55

- エクスポート 45
- 確認 44
- タスク 44 ～ 45

### インストール

- Guest Agent 18
- Update Manager 15 ～ 18
- Update Manager Download Service 19
- クライアント 19 ～ 21

## エ

### エクスポート

- イベント 45

## カ

### 概要

- VMware Update Manager 8
- 構成オプション 13

### 修正 12

- スキヤン 10
- ベースライン 10 ～ 12、26 ～ 27

### 確認

- ESX スキヤン 37
- 仮想マシンのスキヤン 37
- スキヤン結果 33 ～ 37

### 仮想マシン

- シャットダウン警告 38
- 修正の障害 24 ～ 25
- スキヤン 32 ～ 33
- スキヤンの確認 37

## ク

### クライアント

- インストール 19 ～ 21

## コ

### 構成

- Update Manager 21 ～ 26
- VMware Update Manager Download Service 23 ～ 24

### 構成オプション

- 概要 13

### コンプライアンス

- 不明 49

## サ

### 解除

- ベースライン 31

### 削除

- Update Manager 21

### 作成

- ベースライン 27 ～ 30

## シ

### シャットダウン警告 38

### 修正 37 ～ 44

- 概要 12
- 手動 38 ～ 39、39 ～ 40
- スケジュール設定 40 ～ 44

## ス

### スキヤン

- ESX Server ホスト 32 ～ 33
- 概要 10
- 仮想マシン 32 ～ 33

- 手動 32 ～ 33
- スケジュール設定 33

- スキャン結果
  - 確認 33 ～ 37
- スケジュール設定
  - 修正 40 ～ 44
  - スキャン 33

## セ

### 生成

- ログバンドル 47
- ログファイル 47

## タ

### ダウンロード

- アップデート 9
- パッチ 9

## テ

### 適用

- ベースライン 30

## ト

- トラブルシューティング 47 ～ 50
  - ESX Server のスキャンに失敗 50
  - ESX の適用 48
  - コンプライアンス 49
  - 準拠していない仮想マシン 49
  - スキャン 48
  - ベースライン 48
  - ログバンドルの生成 47

## ハ

### パッチ

- ダウンロード 9

## ヘ

### ベースライン

- 概要 10 ～ 12、26 ～ 27
- 解除 31
- 作成 27 ～ 30
- 使用できない 48
- 適用 30
- 編集 30

### 変更

- ベースライン 30

### 編集

- ベースライン 30

## ロ

### ログバンドル

- 生成 47

### ログファイル

- 生成 47